

へき地と都市部の健康格差は世界的な課題であり、へき地と都市部の医療を比較するために諸外国では人口密度、基幹病院までの距離など複数の指標を組み合わせて「へき地尺度」を開発している。演者の一人である金子は日本のへき地医療からのエビデンス発信のために利用可能なへき地尺度である Rurality Index for Japan: RIJ (Kaneko et al. 2023 BMJ Open)を開発した。本セッションでは RIJ の概説を行った後に研究者、臨床医、住民のそれぞれの視点から必要とされるへき地医療のエビデンスと本尺度の可能性について討議を行う。更に、沖縄で取り組まれている離島診療所における多施設共同研究 (Practice Based Research Network)の取り組みについても紹介し、参加頂いた方が実際に地域と共創してへき地医療現場からのエビデンスを発信する第一歩を踏み出すことを目的とする。